



# ふれあい

[学校の様子→](#)



とくべつしえんきょういく こ こころ  
特別支援教育で 子どもの心がひらく

ねんせい こくごか 4年生の国語科で「アップとルーズで伝える」という学習があります。アップとは、ある  
ぶぶん おお と かた 部分を大きくうつす撮り方のことで、ルーズとは、広い範囲をうつす撮り方のことです。  
がくしゅう ちょうしょ たんしょ なに つた 学習では、それぞれに長所や短所があり、何かを伝えるときには、アップとルーズを選ん  
だり、組み合わせたりすることが必要であることを学びます。



とくせい 子どもの特性において、アップのように「細かい部分に目が行く子(仮称:Macタイプ)」、  
こま ふぶん めい こ かしょう マック  
ルーズのように「全体の状況を捉える子(仮称:Windowsタイプ)」がいます。それぞれ  
せんたい じょうきょう とら こ かしょう ウィンドウズ  
に長所や短所はありますが、集団での一斉授業の中では、Macタイプの子は、自分の  
ちょうしょ たんしょ しゅうだん いっせいじゅぎょう なか マック こ じぶん  
学習ペースやこだわりたい学習があるため、一斉授業の流れに苦痛を感じたり、先生や  
ともだち い みみ はい つら おも こま こ  
友達が言っていることが耳に入らず、辛い思いをしたりしています。そんな困っている子どもたちのために、岡田小学校では、特別支援教育を大切にしています。

わたし もし、私たちが、次のような状況になったら、どう感じるでしょうか。

とつぜん がくしゅう がいこくご おし  
突然、学習を外国語で教えられたら・・・  
お こうどう し  
終わりのない行動を強いられたら・・・  
じぶん こうどう  
自分の行動をいちいち否定されたら・・・  
ざつおん なか がくしゅう  
雑音の中で学習することを強いられたら・・・  
おお し じ  
いっぺんに多くの指示をされたら・・・  
べつ  
ものすごくしたいことが別にあったら・・・  
ばか  
できないことを馬鹿にされたら・・・  
こころ かた  
だれしも、心が固まってしまいます。



医師の診断がなくても、「人づきあいの弱さ」「やりとりの弱さ」「こだわり」の特性、「読み、書き、計算の弱さ」の特性や、「不注意・衝動性・多動性」の特性をもった子どももいます。



子どもの特性において、中枢神経が生まれつきうまく働くかない子、得意・不得意の差が大きい子、状況を正しく理解できずに不安な気持ちになる子がいます。そんな子どもの困り感を減らし、「自分ならできる」という自己効力感を育てる場所が特別支援学級です。

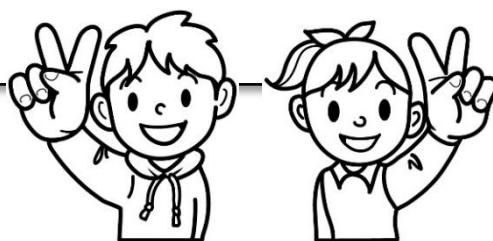


特別支援学級（ひまわり）では、子どもの特性に応じて学級を編成し、1学級の人数を8人以下にしたり、柔軟な教育課程にしたりすることで、きめ細かな対応が可能となるので、子どもは安心して授業に参加し、できることが確実に増えます。岡田小では、子ども理解が支援の第一歩と捉え、「何がわかって、何がわからないのか」「何が好きで、何が苦手か」「何をしていると落ち着くか、どんなとき怒るか」「嬉しいとき、怒ったとき、悲しいとき、どう表現するか」など、子ども理解を通して、得意なことを見つけ、それをさらに伸ばしていきます。また、子どもが何かを成し遂げたいとき、その子が抱く困り感を減らす支援（合理的配慮）を大切にしています。



通級指導教室（たんぽぽ）では、さまざまな要因により、学校生活を送るうえで、困難を抱えている子どもに対して、特性や状況に合った指導を行うことで、情緒の安定と解放を図ったり、自己肯定感を高めたりすることで、前向きに過ごすことができるようしています。

岡田小では、週1回の個別指導で、子どもの特性やニーズに合わせて、感覚統合、遊戲療法、ソーシャルスキルトレーニング、ビジョントレーニング、聞き取りトレーニング、教育相談、進路相談などを行い、認知面、運動面、社会面のスキルアップを図っています。



（校長 小鳥 正嗣）